

第一部は清元、常盤津、長唄、地唄、小唄、京舞、創作劇等で中村扇雀、中村勘九郎、吉村雄輝、山本富士子、中村富十郎らの有名人や祇園の芸妓舞子らの外、島根県の安来節(遠藤お直外)、新潟県の佐渡おけさ(市山七十郎社中)も披露され地方(じかた)も今藤長十郎、杵屋佐吉、清元小志津太夫、常盤津一巴太夫その他一流の芸達者を揃え、第二部は初日水前寺清子のゴールデンショウ、同第二日は同じく美空ひばりという文字通り豪華絢爛の催しで、この内松本明重構成演出の楠正成、正行父子の奮戦から最期迄を取り上げた創作劇「みよしの懐古」は錦ひわ二代宗家水藤五郎氏外一人が琵琶演奏の主地方をつとめ笛、大鼓、どら、詩吟等が助演、立方は翠風玉童、坂東孝明その他大勢で立廻りを演じて万雷の拍手が堂を動かせ琵琶の真価を遺憾なく発揮して三千人収容の大会場も立錫の余地なき超満員の盛況を呈した(四千五百円)。

日本琵琶協会関西支部忘年会

十二月十七日(日)昼三時京都金閣寺附近料亭「錦鶴」(次号詳報)

ラヂオ琵琶放送

十二月十四日(休)午後三時十分NHK・FM「義士の本懐」笹川旭鳳女史。十二月二十一日(休)同、「大高源吾」柴田旭堂、「鴨川の露」山崎旭萃両女史。

山崎旭萃女史 大阪府高槻市宮田町一丁目六ノ五に転居(電話申込み中)

訃報

安田幸吉氏 十一月十九日鹿児島市民会館に於ける演奏会にて「錦の御旗」を演奏中壇上で倒れ急遽手当ての甲斐なく逝去。享年七十九。薩摩琵琶界の元老格で明治三十二年鹿児島市荒田二丁目三三ノ一三に生まれ長らく高校々長を勤め傍ら琵琶の奥儀を極めた有名人。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈る。浅野晴風氏 十一月二十六日脳内出血のため惜逝。享年七十二。大正十年谷暉水師に入門、また絃を石川東城師に就き爾來戰爭中及び病氣療養中を除き専門教師として多数有能の門弟を育成して現在に至る。薩摩琵琶界一方の雄で往年は日本全土は勿論、朝鮮満州各地を琵琶で巡歴しその豪快な演奏は定評があった。謹んで哀悼の意を表し御冥福を祈る。(東京都中野区中野二ノ二五ノ六)

予告

○京都琵琶協会一月例会 一月二十一日(日)午後一時本部平井会長宅(夕刻から新年宴会) ○梅原旭清演奏会 三月十一日(日)正午京都商工会議所ホール。 ○日本琵琶協会関西支部名流会 五月六日(日)午前十時半大阪高島屋ローズ劇場。

あ ゆく年、くる年のことを考えながら編集子はいま正月の締切りに猫の手も借りたいほど忙殺されている。大きな被害を出した宮城沖地震、或いは例年にない激しい寒害を繰返した五十三三年●円相場の乱れによる物価の激変、予想外の内閣更迭、惜しめても余りある有名琵琶人数氏の他界等々、いままこで追憶しただけでも世の変遷は容赦なく繰返されつつある。五十四年は琵琶界をはじめ世間一般が平穏であるよう念じながら京絃正月号をお目にかける。●本号は年内にお手許に届くよう暮れの二十五日頃までに発送の予定である。●が、全通の順法闘争とかで、だいたい郵便物が遅れている様子なので或いは新年初頭までに配達されるかどうかを心配している。●年賀交礼のお申込み深謝、平素御無沙汰勝ちの絃友同好者間がこれによって旧交を温められたならば望外の喜びである。●到着順に登載したがこの状態では締切後のお申込みが多少ともあるのでは、と案じている。●この場合は申訳ないが「寒中見舞」として二月号に掲載させて頂きたく悪からず御寛容を賜りたい。●大衆の迷惑を度外視しての国鉄私鉄のスト、郵便屋さんのスト、いつもながら全く困ったものである。

昭和五十四年一月一日発行(非売品) 編集者 植村 實 水 発行所 高槻市津之江北町一ノ二三 電話 〇七三六(七三六)〇五一番

琵琶 機関紙

京

絃

第二九五号 京 絃 社

年 頭 の 辞

謹んで新年の御慶を申し述べます。昨年は一方ならぬ御交誼を頂き誠に有難うございました。どうぞ本年もよろしく御垂教御鞭撻をお願ひ申し上げます。

明治大正生まれの多い人で構成される現在の琵琶界は、兎もすれば自然淘汰の傾向を否定する訳にはいきませんが、我が国が長寿世界一を誇る今日、必ずしも悲観するには及ばないと考えられます。まづ健康第一、命あつての物種で、寸暇を削いで琵琶器を膝に雑念を払いのけ、歌中の人になり切つて腹の底から声を出し、好きな一曲を演奏するのは琵琶人には最も実行し易い健康法であります。腹の底から大声を出して謡うのは、咽喉の筋肉をきたえ血のめぐりをよくします。また豊かな声は腹式呼吸とつながり、一層効果があります。(但し声変わり時期の少年には大声を強要してはいけません。)

筆者は、寒暑晴雨を論ぜず毎日欠かさず、

京絃主幹 植村 實 水



大股で大手を振って一時間散歩の励行と、朝離床の直後と夜就寝前の各五分間体操、それに下手の横好きの琵琶演奏で体の保持を心がけ、一方、毎月発行「京絃」の執筆や編集の仕事で頭脳の体操をして居ります。お蔭で齢八十を過ぎた今日まで、どこと云って体の変調も覚え、毎日を感謝しながら楽しく過ごしています。我々年輩者には過激な運動は禁物で、この程度の体と頭を使うことは、何よりの健康法と自負して居ります。読者各位に於かれても、この程度の健康法を是非お奨めいたします。

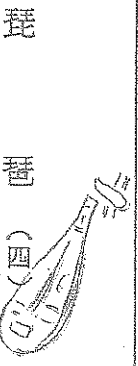
閑話休題。琵琶楽の将来。若い人の琵琶後継者育成が目下の急務であることは、これまで何回となく提唱した通りで、これは現琵琶界の等しく要望する重要問題であります。どうすれば若い人を琵琶楽に誘い込むか、ギターを抱いて歯の浮くような演歌や歌謡曲などに興ずる若い層の多い今日、これらの若人

を古典琵琶楽に転向させるのは容易なことでありませぬ。だからと云って、「我不関焉」では済まされぬと思つて居ります。この目的に添うためまづ手近な問題として、殺伐な外国との戦争ものの拒否、琵琶歌詞を現代語に近いものとした判り易い歌曲の新作、安価な琵琶楽器の創作、演奏会出演の服装簡略化、頻繁に公開演奏会開催、その他長文の歌曲は中抜きをしないで、一曲全文を二、三人で分奏するとか、他の和楽器との合奏など、多岐に亘つて研究を要する難問が山積し、どの一つを取り上げても解決、実行が容易でない事は判りますが、さりとてこの儘打ち棄てて置くのは怠慢のそしりを免れず、是等は現代琵琶人に課せられた責務であると主張するものであります。

筑前琵琶では茶道、華道、書道などを取り上げた合奏曲を発表され、誠に結構と敬意を表しますが、しかしこれとて、茶、花、書道に志す人は別として、一般聴者には琵琶歌詞の本体は不可解に近く、単にその場の雰囲気浸っているに過ぎぬ感が多分にあります。

各流派の宗家、家元に於かれても、独り自流派の発展のみに専念することなく、全琵琶道のために力を尽くされんことを、年頭に当り特別に願ひ申し上げます。

年頭の挨拶がペンの赴くままに失礼なことを申し上げてしまい恐縮千万に存じます。本年がどうか読者諸君に最良の年でありませうと念じて賀詞といたします。



琵琶 (四)

忘れられんとする音の世界

村山道宣

対馬の盲僧 (2)

素晴らしい声の世界

翌日、庚申堂を訪ねた。おばあちゃんに待...

「そもそも、此の所に時ならぬ道場を飾り...

の所に勤請申し奉ることを受け取り給え。今...

うことは、必定であった。おばあちゃんの唱...

その祭文には、数多くの不思議な言葉が、...

私は、折口信夫が「古代研究」で論述して...

抜粋の記憶力

おばあちゃんは、「しぶといときには、こんな風...

おばあちゃんは、驚くほど多くの経文や語...

信仰こそが、彼等の諸業の背景であり、また...

て、政子は尼將軍と呼ばれる。しかし、血で...

ものであった。

対馬の盲僧の特色

それから私が大変興味を覚えたのは、対馬...

戦国時代の女性 (一〇)

ばくすい



清盛の妻・時子と 頼朝の妻・政子 (5)

夫の死後五か月、次女三幡が病死した。将...

北条政子といひ、平時子といひ、動乱期に...

この話によっても、北條政子という強烈な個性が、その実家、北条氏の存在とからんで、実の子供にとっても堪えがたく重苦しい存在であったことが想像できる。彼女は自分や北条氏に反抗的になつてゆく実朝にも失望し、彼を蔑して、京都の公卿から次ぎの將軍を迎える動きを、実朝生存中にすてにしていたとさえいわれる。

いかに源氏の棟梁の妻といつても、凄まじい決意である。晩年の彼女には、女としての幸福、母としての安らぎも全く無縁であった。しかし彼女が、そのような生き方をしたのも、避けがたい成り行きがあつたにしても、やはり自らが選んだ道であつた。



劍豪のふるさと

柳生の里

辻 旭城

小説や映画、テレビなどで広く知られている劍豪のふるさと柳生は、奈良県の東北部、京都府と三重県に接する鄙びた山合の平和な小盆地である。

かつて柳生に剣を学ぶために、全国各藩からおびただしい剣士たちが通つた街道は、江戸から伊賀上野を経由する江戸街道、京都から木津川を渡り笠置からの街道、奈良から真

直ぐの柳生街道、の三道があつたが、最も多く利用されたのは、柳生街道であつたという。柳生の案内書によると、奈良、柳生間バス五十三分、笠置、柳生間バス十五分。劍聖柳生飛騨守宗矩の居城のあつたところ、劍豪小説では柳生庄として馴染みである。

柳生十兵衛が、門弟一万余人を鍛えた正木坂道場跡、旧城跡、柳生一族の墓のある芳徳寺、徳政一揆の碑文、ホウソウ地蔵など見学箇所も多い。奈良と柳生を結ぶ柳生街道沿いには古い石仏が多く、この道をたどるハイカーは、柳生道場を目指した昔の武芸者の気分を味わうことができる。

現在の柳生は静かな農村で、旅行者のために民宿が開かれていた。柳生の里の歴史は、劍豪柳生一族の歴史でもある。柳生家中興の祖柳生宗嚴(石舟斎)は、戦国時代の末期、上泉伊勢守について親しく新陰流の秘伝を授けられ、新たに無刀流の術を究めて柳生新陰流を創始した。武士の帯刀は抜かぬが理想で、活人剣こそ武士のたしなみである。という考え方であつた。

元龜二年(一五七一)宗嚴の五男柳生但馬守宗矩は、沢庵禪師について禅の修業に励み、「劍禪一如」の境地を開き、徳川將軍の兵法指南役として徳川秀忠、家光に柳生新陰流を伝授し、一万二千五百石の大名に列せられ、後に大目付の要職についた。

宗矩の長男十兵衛三藏は文武両道に秀でていた。十兵衛三藏は一世の劍豪で、十数年

に亘り武芸修業を兼ねて諸国を巡歴した後、ふるさと柳生に帰り、道場を開いて門弟を教え、柳生新陰流の奥儀「月の抄」を書き残し、宗矩の三男飛騨守宗冬も、將軍家の指南役として重用された。

かつてNHK・TVドラマ「樅の木は残つた」の後を承けて、昭和四十六年一月から一年間ほど放映された「春の坂道」近くは民間TVドラマの「柳生一族の陰謀」など、全国視聴者たちに劍豪の里「柳生」を強烈に印象づけたのであつた。

寛永三年(一六二六)十兵衛二十才で父の勘気を蒙り、小田原城下に謫居したとき、只一人十兵衛に付き添って身のまわりの世話をしたのは、狭川知之である。

十兵衛と知之との出会いについては、知之が徳川家光の眼鏡にかなつて、小姓として召し出されたのが元和五年(一六一九)の春十三才だったが、十六才になったとき故郷の大和柳生の里、正木坂から十兵衛下僕として呼び寄せられたものであつた。

知之は小まめに働くだけでなく、教えてみれば劍の筋がひどく良い上に、とりわけ走角にすぐれているところから、江戸屋敷との連絡にも調法であつた。そのため十兵衛は弟でも可愛がるように、何処へ行くときにも供をさせていた。

柳生の里の大部分を一望できる中宮寺の裏墓地にあつた周囲七米、高さ約三十米の老杉は、十兵衛三藏が諸国修業に出るときに記念

として、寛永三年(一六二六)に植樹したといわれ、数年前までうっそうと生い茂つていたが、落雷のため今はすっかり枯れてしまつたと。土地の古老が話してくれた。

我が道を行

六十五年(六五)

西郷 天風



もし、あの時代に、今日の如くテープレコーダーが安易に入手できたならば、何とか連絡の道も開け、女史の芸風にビッタリの演奏が到る処で歓迎されたであろう。それを自認しながら遂になすすべもなく、世を去つてしまつた彼女の心情や如何。それを思う時、彼女の芸風や性格を知る者として、まことに遺憾に堪えぬ次第である。

さて、私が隣国の国際都市「上海」にまで飛込むに至つた動機は、待望の台湾で異国情緒の風物に接し胸踊らせつゝある処へ、上海事変勃発により好奇心のおもむくまま、目まぐるしい一ヶ月を過ごしてしまつた。

折しも折、日支事変が本格的戦争となるにつれ、私も皇軍慰問を決定するに至つた次第で、その夏、高雄新報映画班一行と再度上海入りするや、上陸地点揚子浦馬頭(ヤンテツ

ボマトウ)に近い、ウイーン砲台(皇軍の上陸を惨々やました揚子江河口の砲台)の後方に設営の皇軍約一個大隊に対して「川中島」「九連城」「錦の御旗」の三曲を演奏した。之が現地に於ける慰問演奏の第一号であつた。大体現地に於ける皇軍慰問演奏は殆んどこの三曲で、二、三ヶ所続くような時には「威海衛」「旅順開城上下」稀れには「小督」や「小教盛上段」等を試みる場合もあつたが、さつと「川中島」だけは最初に、まあ「声馴らし」として精一杯に唄うのが常であつた。

ところて或る日のことだつた。若い……大卒の士官候補生が全兵隊を前にして、驚くべき講話を行つた。

「朝日」か何か、二十本入の煙草一箱を頭上高く差し上げ、今我々の大先輩によって、これくらいの爆弾一個で、軍艦三隻ぐらい一瞬にして吹飛ばす程の発明が実現せんとして居る。お前達もそれ迄の辛棒だ、しっかり頼むぞ、と。若しこれが実現せんか、今次世界大戦は勝敗が所を変えたであろうに、可惜、功央はにしてその発明家は、不完全な研究室で爆死されたとか。

そんな事にならうとは露知らず、いづれあの爆弾出現により、大勝利の祝宴が眼に見えるような気持となり、軍靴の音も勇ましく行軍する楽しさが、小学生時代の遠足を思わせ、平和で静かな農村風景は、祖国の片田舎と異なる所はなかつた。更に愉快なことは、はるか彼方の農家から

数人の子供等が沿道近く走り来て、物珍らしく眺める姿であつた。こうした敵味方の差別を知らぬ民衆は上海市内でも同様であり、従つて我々日本人も何等危懼を感じず、日本租界から川向うと称する四川路橋先の、四馬路(スマロ)五馬路(ウマロ)等の路と十字を結ぶ静安寺路から、フランススタン(フランス租界)等の西歐風繁華街の散策が、楽しい日課のようなものだつた。

やがて武漢三鎮進攻の噂と共に、台湾の聯隊も揚子江兩岸を大治方面指して進軍することを知り、それに加わるべく、上海を出発したのが九月初頃だつた。

その日の夕刻、後続部隊に追いつき、その夜から報導班の一員となり、爾後行軍の途上野営が二泊以上に亘る時に限つて陣中慰問演奏を許され、進軍四日目頃、その名も珍竹林と称する部落に入るや、此処は三日間の設営だ、演芸会演芸会」と飛びまわれば副官が現われ、私に、勇ましいのを、と、ニコニコ顔である。私は「川中島」か「錦の御旗」を提案すれば「川中島」が圧倒的だつた。演芸会は歌謡曲から始まり、浪曲、漫談、声帯模写などいづれもレコード仕込みらしいが、中々堂に入ったものもあり、それも、明日をも知れぬ無窓の芸だけあつて、胸を打つものが多かった。

殊に、それから数日後の大治鉄山に近い大治城迄二、三日の部落に設営の慰安会では、部隊長自ら「今日は仲秋の名月で、内地では

年 新 賀 謹

〒238 自宅
電話〇四六八(二二)三七七五番

邦楽木犀会 相談役
社団法人東洋音楽学会 各員
史城 普門 義則

〒662 西宮市松園町十三番二十一号
電話〇七九八(二二)八二〇八番

琵琶一水会 神戸支部 理事
琵琶蓮水会
楊 嶽 水

〒570 守口市緑町土居団地十一号
電話〇六(九九二)五六二五番

大阪吟水会

〒040 函館市青柳町二六ノ一四
電話 (二六) 一六二三番

高橋 蘇 水

〒111 東京都台東区駒形一ノ一五
スズセイビル六階
電話〇三(八四五)二二二番代

楽器研究室

〒843 越谷市大成町一ノ二三九二
電話〇四八九(八二二)二二四一番代

鈴木 流 泉

日本琵琶振興会

年 新 賀 謹

〒156 東京都世田谷区八幡山二ノ一
電話〇三(三二九)三五五〇番

琵琶洲楓会
会長 大館 美江子

〒817 向日市西向日鶏冠井町山端二番地
電話〇七五(九三二)一六九一番

梅原 旭 濤

〒431-31 浜松市積志町一八三番
電話〇五三四(三四)〇八七一番

薩摩琵琶鶴絃会
晃陽 小野 鶴彦

〒189 東京都東村山市美住町一ノ四
久米川公園九ノ二〇四
電話〇四二三(九一)九三三二番

若宮 旭 登

〒454 名古屋市中川区中島新町
中川住宅五ノ四〇一号
電話〇五二(三五三)〇二八四番

阿部 秋子

琵琶芸術同好会名古屋支部
錦心流琵琶秋声会名古屋本部

〒141 東京都品川区西五反田四ノ八ノ二
電話〇三(四九一)八三三二番

前田 秋 声

琵琶芸術同好会
四絃富士会
秋声会東京本部

年 新 賀 謹

〒420 静岡市西草深町二一ノ二〇
電話〇五四二(五三)一四七一番

吟詠 赤心流
琵琶 赤心流
家元 赤心流鶴翁

〒569 高槻市宮田町一ノ六ノ五
電話〇七二六 (申込み中)

筑前琵琶橋会宗範
山崎旭萃
大和流琵琶吟家元
山崎光椽

〒544 大阪市生野区小路二〇ノ二六
電話〇六(七五三)〇〇六六七番

高千穂旭楓

〒537 大阪市東成区神路三ノ八九ノ十
電話〇六(九七八)二二七七八番

榊本旭風

年 新 賀 謹

〒160 筑前琵琶
東京都新宿区三栄町十六番
電話〇三(三五)四五九一

大日本旭会
大師範
押田旭窃

〒520 大津市逢坂一丁目一ノ三二
(蟬丸神社前)
電話〇七七五(二四)九三二八番

松岡旭岡
伊藤旭暢

〒678 相生市相生三丁目一四ノ一七
電話〇七九一二(二)五一八番

浜本旭好

〒653 神戸市長田区梅ヶ香町一ノ一五
電話〇七八(六七)〇〇一八番

田中旭昇

筑前琵琶日本旭会

年 新 賀 謹

<p>〒237 横須賀市船越町一ノ五〇 電話〇四六八(六一)三六七六番</p> <p>横須賀琵琶連盟 会長 山田 幻水</p>	<p>〒184 東京都小金井市本町一ノ八ノ五 電話〇四二三(八一)三三四四番</p> <p>錦心流琵琶一水会多摩支部長 各流派武絃会事務所 伊藤 磐水</p>
<p>〒583 大阪府羽曳野市植生野八五二ア四 電話〇七二九(五八)四四五九番</p> <p>竹本 旭将</p> <p>〒618 大阪府三島郡島本町桜井四ノ一 電話〇七五(九六一)五〇四三番</p> <p>秋元 旭晨</p>	<p>〒601 京都市南区吉祥院中島町三〇ノ八 電話〇七五(六九一)〇一二八番</p> <p>琵琶三美会 会長 矢吹 旭美津 田中 鵬水 富山 旭貴 西村 旭富 一坊寺 旭清 外門人一同</p>
<p>〒177 東京都練馬区石神井台四ノ五 電話〇三(九二八)四〇一三番</p> <p>雅俊 杉山 旗水</p> <p>物語琵琶雅俊会</p> <p>昨年中は種々御高配を賜り 有難く御礼申し上げます 本年も相変らず御指導、御 鞭撻の程お願い申し上げます</p>	

年 新 賀 謹

<p>〒602 京都市上京区堀川通樺木町東角 電話〇七五(二二一)四〇三三番</p> <p>筑前琵琶旭總會 神心流詩吟総師範 師範 中島 旭穂</p>	<p>〒171 東京都豊島区高松三ノ一二 電話〇三(九五五)三六四五番</p> <p>筑前琵琶 大師範 藤卷 旭鴻</p>
<p>〒606 京都市左京区下鴨藪倉町一六 馬場鴨水方 電話〇七五(七八一)三〇五〇番</p> <p>錦心流琵琶 一水会京都支部 会員一同</p>	<p>〒570 守口市緑町土居団地一一号 小川吟水方 電話〇六(九九二)五六二五番</p> <p>錦心流琵琶 一水会大阪支部 会員一同</p>
<p>〒651 神戸市灘合区上筒井五ノ四ノ二 電話〇七八(二二一)一一六一番</p> <p>宝塚花組 上原 まり (旭艶)</p> <p>筑前琵琶旭堂会 旭会大師範 柴田 旭堂</p>	

謹

賀

新

年

筑前 琵琶
大阪中央部旭会

塩谷 旭洲

〒585 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四
電話〇六(九五二)九二九四番

薩摩 琵琶錦水会
正絃会・四明会会員

岡部 錦蝶

〒359 埼玉県所沢市中新井二ノ二八一
電話〇四二九(四三)〇九二八番

日本旭会舞鶴琵琶協会
事務所

高橋 旭洋

〒625 舞鶴市朝日通五條東入
電話〇七七三(六四)〇五一八番

吟道 東州流

宗家 平田 東州

〒598 自宅 大阪府泉佐野市佐野台二〇
電話〇七三四(六三)〇三五六番

〒530 本 東州流 大阪府北区西扇町一七の五
高桑 東扇方 電話〇六(三六)五七九〇

鈴木 誉士

〒176 東京都練馬区豊玉北五ノ一一
芸の友社 電話〇三(九九一)〇三六三番

正絃会・四明会
日本琵琶楽協会

たかしら
箕流 柿沢 篁峰

〒534 浜松市安松町三三ノ四
電話〇五三四(六一)三五五四番

日本芸術琵琶

普絃会々員一同

〒160 東京都新宿区西新宿六ノ三ノ一三
山崎 錦幽方 電話〇三(三四二)一〇六〇番

薩摩 琵琶

仲川 秀邦

〒164 東京都中野区中央一ノ三二ノ六
電話〇三(三六一)七七四〇番

全国朗吟文化協会関東副部長
テイチクレコード専属
錦古流詩吟総本部会長

宗家 針谷 錦古

〒370-12 高崎市岩鼻町二四七局前
電話〇二七三(四六)二〇〇六番

筑前 琵琶
大阪中央部旭会

塩谷 旭洲

〒585 大阪市旭区中宮四ノ一二ノ一四
電話〇六(九五二)九二九四番

薩摩 琵琶錦水会
正絃会・四明会会員

岡部 錦蝶

〒359 埼玉県所沢市中新井二ノ二八一
電話〇四二九(四三)〇九二八番

日本旭会舞鶴琵琶協会
事務所

高橋 旭洋

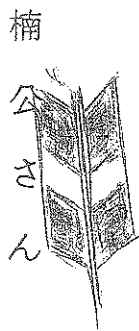
〒625 舞鶴市朝日通五條東入
電話〇七七三(六四)〇五一八番

吟道 東州流

宗家 平田 東州

〒598 自宅 大阪府泉佐野市佐野台二〇
電話〇七三四(六三)〇三五六番

〒530 本 東州流 大阪府北区西扇町一七の五
高桑 東扇方 電話〇六(三六)五七九〇



山本正三

月見の宴を催す家も多いだろう、我々も銃後に呼応して大いに戦果を祝い、英霊を慰めようではないかと、清酒一合瓶一本と、モンキバナナの干物三本の配給があった。

千早小学校の校庭には見上げるような楠公の騎馬像。村営ロープウェイ山上駅には楠公遺品館。小、中学校の校章は、楠公ゆかりの「菊水」の紋。南北朝の武将楠本正成は、今も村のいたるところで生きている。

自宅から村役場まで約一キロ。いつも愛用の小形車で登庁。道すがらの「楠公生誕地」楠公没後六百年を記念して造られた奉建塔など楠公史跡の前を通ると、思わず頭が下がる。村民は親しみをこめて「楠公さん」と呼ぶ。

村には、楠公史跡保存会がある。会員数六百五十人余り。村民の一割強を占める。六月、十二月の二回、会報を出し楠公さんの史跡の整備にも力を入れている。密柑狩りのシーズンには史跡めぐりのオリエンテーリングなどという行事も開催されている。

楠公は矢張り政治家でもあった。赤阪城、そして千早城へ。楠公の戦いぶりは太平記な

どで有名であるが、そのギリラ戦ぶりを「一種の忍者」のようにも思うし、情知らずの単に武勇だけでもなかった。その一例、森屋地区にある寄手塚・味方塚。寄手とは北条の軍勢で、戦いの中で死んだ敵を葬ったものといわれ、その大きさは味方塚よりも大きい。敵と呼ばず寄せ手という。今の赤十字のような精神で、大きな塚を造られた。やはり政治家だから尊敬される訳である。

保存会が、戦前派の忠君愛国の精神で満ち満ちている訳ではない。会報にもしばしば「楠公が戦前、あのような形で尊崇されすぎたのが不幸」と云ったクールな論文が登場する。(筆者は大坂府下唯一の村、千早赤阪村長)

「柱」装填時のポイントの一つ

鈴木流泉



今回は、薩摩琵琶の柱(大千・上段・中段・下段)の高さ……と云うよりは、張られた「絃」との間隔……に就て、些か私見を述べてみようと思ひます。

勿論、之は、ご自分で「柱」の着付け替えをする、その作業初歩の方々の「目安」でありますから、特別「新規」な事柄ではありません。

簡単に結論を云えば、下段以外の柱に絃を「アテ」て、「オサ」えた時、その下の柱と絃との間隔が、一ミリ離れていれば、先づはよろしい、と云う事でありませぬ。

故に、開放の儘で計れば、大千の柱は、絃との間隔一ミリ、上段は二ミリ、中段は三ミリ、下段は四ミリ、と云うことになりませぬ。但し、之を以て絶対値也とは申しませぬ。即ち、調子の高低に依って、絃の振動の幅に差があるからです。

然し、それも肉眼で識別し得る程の「差」ではありませんから、凡そ右寸法を以てすれば、下の柱に絃が触れて、音が止る……或はカスレル、と云う様な事はありませぬ。お試しくださいませ。(以上)

京都琵琶協会 観楓会の記



観楓会の記

十一月十二日(日)十時半、京阪電車稲荷駅に集合、東へ参道を稲荷大社へと向った。

可愛い七五三の子たちに交って朱色の鮮やかな楼門をくぐって神前に拝礼す。赤い鳥居のトンネルがびっしり並んで続く奥の院へは二〇〇メートル。参拝を終えて一同写真を撮る。

これからはこの辺の土地に明るく平井会長の道案内に従う。山際に沿った竹林、雑木林の紅葉した風景を眺めながら、静かな道を通り抜けて藤原俊成卿のお墓へ案内された。

と詠まれた深草の里はこのあたりから伏見までの間をい、貴族の別荘がたち並び、数々の仏寺が営まれたが、今その面影はうかがい知ることが出来ない。

この歌は自讃歌百首の中にあって、暢達した細い調へともい、俊成の歌風がよく表われている。定家は四十九才の子である。後に「千載集」の撰者になったのは七十五才。元久元年(一一〇四)年九十一才で歿した。その間政局は平家の都落ち、滅亡、義経の奥州落ちと激変している。

石段を数段上った墓所には黄や赤い桜の葉がはらはらと頭上に散りかかり、どんぐりの実が豆をまいたように地上にころがる中を踏みつけ、山茶花の白い花が咲き、大小さまざまのお墓が安置されている。

正面、石垣に囲まれた円いお墓が三つ並んである。大きな方が三位俊成卿のお墓であることが石標で知り得た。

これより会長の墓前献奏が始まる。曲目は「忠度都落ち」あたりは森閑として人語の響もなく琵琶の音と美しい歌が冴えて一そう感を深くする。奉納十四分。

奉納が終って方面を北へ臨濟宗大本山東福

寺の紅葉を觀賞しようと同は道を急ぐ。通天橋を渡ると両辺は楓樹が多く、この溪は「洗玉瀧」といわれているが、今を見どころと人出も多く、深紅の色が目一ぱいに映えて、杜牧の「山行」の詩が思い出される。車を停めて坐るに愛す楓林の晩(くれ)霜葉は二月の花よりも紅なり

仏殿には本尊運慶作釈迦三尊、天井意、白衣観音像は狩野探幽筆、壮麗な建物が連なり清浄無垢の法域といわれる。那須与一を祀る即成院や楊貴妃観音の美しい像など拝観す。空模様も心配することなくて、降りみ降らずみ、参道の落葉を踏む、女流の方々は爽快な足取りで行程約四キロを元気に、三時半すぎ観楓会を楽しく終えることが出来た。

吉井良三

朱の袴つくりて坐す絵舞台
盛装せる師の発挽を聞きぬ
聞き得たる遠来の師の声調に
満場音なし深海の如く

秋季法要琵琶諸会大会

十一月三日から三日間滋賀県安土町浄厳寺に於ける首記に大阪琵琶同好会が協賛し琵琶部は大楠公、光旭仙、石重丸、矢野旭信、白虎隊、島津旭星、城山、米原原智、湊川、多



(鴨水記)

和▼安宅の関▼辻旭城▼粟津の露▼石橋旭嶺▼湖水渡り▼作花旭友▼戦艦大和▼田中敷水▼羅生門▼中島旭穂▼菊の礎▼天津八千代の諸氏演奏の外詩吟、日舞、浪曲、民謡、奇術などで賑った。

洲楓会演奏会

十一月十八日(出夕)五時半東京上野本牧亭、主催洲楓会本部(二組の出演)。菅公▼内田洲蓉▼絃桑名洲聖▼月下の陣▼立花青真▼赤穂の落日▼鶴岡洲船▼絃稲垣洲玲▼本能寺▼荒川洲博▼山科の別れ▼金尾洲丈▼異国の丘▼神戸洲正▼竜の口▼平井洲誠▼瀧陽江▼山田洲鳳▼橋大隊長▼川本玉水▼雪晴れ▼前田洲月▼茨木▼荒川洲帆▼羽衣▼来賓阿部秋子▼吹雪の敵▼来賓中谷襄水。外に詩吟四題。

晴風会霜月例会

十一月二十三日(休)夕六時東京杉並区高円寺会館(会長浅野晴風氏)。送別▼池本▼重衡▼竹内▼白虎隊▼大田尾桜風▼秋海棠▼中山礼風▼羅生門▼岩崎竜風▼屋島の誓▼野口敏水▼彰義隊▼福島腹水▼教盛▼諸遊情風▼大関英子▼泊り舟▼望月啞江▼花▼紅葉▼若林晴波▼静▼高田栄水▼坂崎出羽守▼杉山雅俊▼設楽ヶ原▼山下晴楓。

三ツ和会演奏会

十一月二十六日(日)正午東京都東山安井金比羅会館、主催三ツ和琵琶研究会、後援京都琵琶

協会。薩摩平井、筑前梅原、同矢吹三師の門下により運営される演奏会で関ヶ原▼矢吹旭美津、神崎雪女▼海原旭濤、寂光院▼平井春嶺三師の模範演奏の外桐一葉▼田中▼月下の陣▼山田▼粟津ヶ原▼大沢▼赤垣源蔵▼中谷▼茶臼山▼永井旭美▼大高源吾▼渡辺旭寿▼衣川▼斎藤▼小栗栖▼高田旭章▼禪師と正宗▼細川旭穂▼坂崎出羽守▼清水旭翠▼敵島の戦▼一坊寺旭清▼綱結▼山崎旭栄、国友旭香▼湖水渡り▼田中瀧水▼堅田落▼岡本旭村、以上演奏、満員に近い聴衆を喜ばせた。

第三回邦楽演奏会「晩秋〜冬」

十二月二日(出夕)六時半大阪此花区民ホール、主催関川昌宏庵氏(七百円)。琵琶「壇の浦」の外秋風の曲、冬の曲、残月、ゆきなど等、三絃等で各専門家が披露された。

京都琵琶協会十二月例会

十二月三日(日)昼一時本部平井会長宅。馬場鴨水、戸田旭公、楊嶽水、梅原旭濤、安住旭康、山岡旭清、牧南水、荒木旭媛、桜井旭富、水内燦水、平井春嶺、植村真水の各会員並びに来賓伊達氏列席、会員数氏研究演奏のあと協議に移り長期欠席会員の整理、毎月例会の外原則として毎月第四日曜日を研修会とする件その他を附議し附近の料亭錦鶴で乾杯小宴の後八時散会した。

神戸古典芸能の会

十二月五日(休)昼一時神戸上田能楽堂、神戸新聞社、あしたの会共催。筑前琵琶綱結を酒井旭韻、松尾旭苑、西沢旭朝、大塚旭晶、首道旭暉、平田旭甫六氏合奏の外仕舞、能楽、舞踊が披露された。

定例研究会

十二月十日(日)昼一時東京文京区別当浄心寺、主催日本琵琶楽協会(千円)。吉野落(上)▼左藤湘春▼大石主税▼内田旭章▼別れの盃▼山下晴楓▼大高源吾▼木原綾子▼講評▼金田一春彦先生。

一水会京都支部納めの例会

十二月十日(日)昼一時京都本妙寺で開催。支部長馬場鴨水氏を初め早川幾水、牧南水、木下皇水各会員の外山岡旭清、荒木旭媛、桜井旭富、峰口高昇、平井春嶺、植村真水の六氏が招待を受け、馬場、紅葉狩▼牧▼舟舟▼早川▼景清▼木下▼別れの盃▼植村▼花も菅の白虎隊▼平井▼小楠公の順で演奏のあと一盞を傾けて五時半散会。

世紀の祭典「日本の舞」

十二月九日(日)の両日京都岡崎公会堂本館に於て日本民主同志会(執行委員長松本明重氏)主催、文化庁、京都府、京都市その他の後援で第十一回首記が華々しく開催され、両日とも昼一時半と五時半の二回開会、